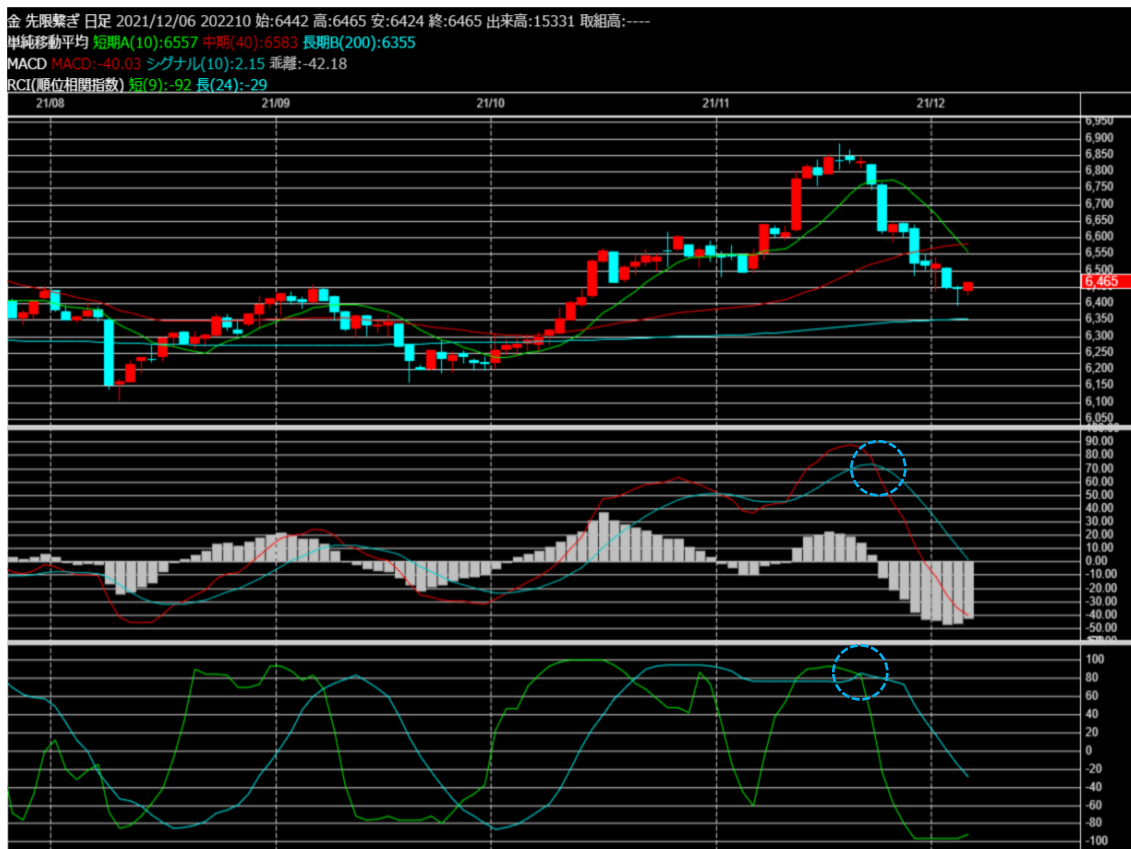


<金標準先物、長期金利の低下で 6400 円の下値抵抗確認・・・>



(出所：オアシス)

南アフリカで最初に確認された新型コロナ・ウイルスのオミクロン株は世界 40 カ国で確認が行われ、デルタ株に比べ感染力が強い事が示されている。またパウエル FRB 議長は上下両議会での議会証言で「私の見解では資産購入を数カ月早く終了することを検討するのが適切だ」と表明し、週末の雇用統計では非農業部門雇用者数が事前予想を大きく下回る 21 万人増となったが、「テーパリングの加速が今回の統計によって押し戻されると考えるのは間違いだろう」と述べるなど、今回の雇用統計はゲームチェンジャーにはならないと見られる。ただ市場の早期の利上げ期待感を一時的に後退させた動きに傾けた可能性は否めない事から長期債の金利は低下している。

そのため金標準先物は、早期のテーパリング開始の動きを織り込み、感染リスクの高まりで金利低下を受け下げ渋る展開を示す可能性が高く、目先 6400 円で下げ止まりながら、6500 円に向けた戻りに注目したい。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** と **シグナル** が下げているが、ヒストグラムは伸びを欠いており、RCI でも **短期** が切り上げだし、**長期** は下げている。そのため目先は 6400 円で下げ渋る動きを見せながら、**10 日移動平均線** が位置する 6550 円へ向けた戻りに注目したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 300,000 円(2021 年 12 月 6 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 31,460 円(2021 年 12 月 6 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>